

# シカ捕獲プロフィール

(九州局)大分西部森林管理署

## 1. 署の基本情報

### ① 署の基礎的情報

管内面積	15,170.00ha		
シカ生息密度	50頭/km <sup>2</sup> 以上		
管内市町村数	9		
	R3	R4	R5
更新面積	4.66ha	28.82ha	27.81ha
人工造林面積	4.66ha	28.82ha	27.81ha
シカによる森林被害面積	2.95ha	0.79ha	3.41ha
うち、人工林被害面積	2.95ha	0.79ha	3.41ha

※1

### ④ 協定・協議会数

			R3	R4	R5
わな貸出	協定 協議会	鍵貸与	1	1	1
		除雪等 その他			
その他	協定				
	協議会				

### ② 署のシカ捕獲等対応体制

担当職員	総括森林整備官 野生鳥獣対策官		
	R3	R4	R5
全職員数	26人	25人	26人
わな講習受講者数	(※2)13人	20人	21人
狩猟免許所持職員数	1人	1人	1人

### ③ 捕獲実行形態

		R3	R4	R5
職員実行		○	○	○
委託事業		○	○	○
わな貸出	協定	○	○	○
	協議会			
その他	協定	鍵貸与		
		除雪等 その他		
	協議会			

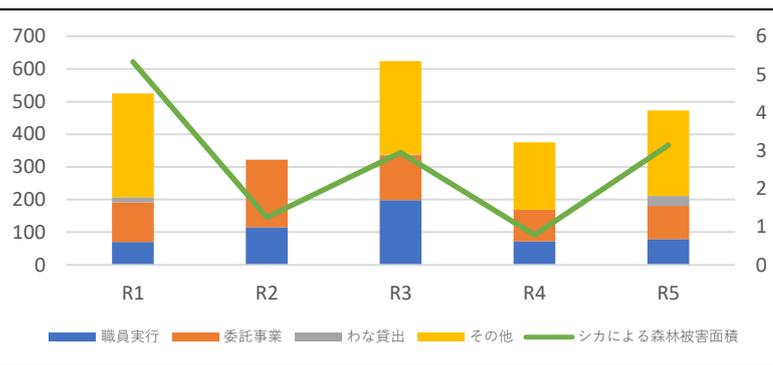
### ⑤ 捕獲の方法、実施時期

・捕獲の方法	R3	R4	R5
改良型わな等	小林式		
	こじゃんと		
	その他	○	○
くくりわな	○	○	○
囲いわな	○	○	○
銃(モバイルカリング等)			
・捕獲実施時期			
職員実行	4月～3月		
委託事業	9月～12月		
協定	4月～3月		

### ⑥ 捕獲以外の被害対策

シカ防護柵実施有無	有
シカ忌避剤使用有無	無

## 2. 捕獲頭数とシカによる森林被害面積の推移



	R1	R2	R3	R4	R5	
捕獲頭数	職員実行	70頭	115頭	198頭	72頭	79頭
	委託事業	121頭	207頭	138頭	97頭	101頭
	わな貸出	16頭	1頭	2頭	—	31頭
	その他	318頭	—	285頭	206頭	262頭
	計	525頭	323頭	623頭	375頭	473頭
シカによる森林被害面積	5.33ha	1.25ha	2.95ha	0.79ha	3.41ha	

### ★森林被害対策のワンポイントアピール

#### 大分西部森林管理署の取組

##### ①職員実行

ICTを利用した捕獲システムを令和2年10月から導入。令和6年3月末で親機4個、子機145個を導入しています。森林官及び捕獲従事者(再雇用者)のわなの見回りを大幅に軽減でき、通常の巡視程度でわなを管理しています。⇒「4. 職員実行」をご参照ください。

##### ②わな貸出

シカ被害対策協定(わな貸出協定)については、別府市、別府市猟友会と協定しています。捕獲場所が観光名所(鶴見岳)周辺ではあるが、くくりわな・囲いわな2箇所を使いながら捕獲を行っています。

⇒「6. わな貸出(協定・協議会)」をご参照ください。

※1 シカによる森林被害面積は、森林被害年報における実損面積です。

※2 わな講習を受講した人数

### 3. 署長が語る

#### 【大分西部森林管理署管内の地勢】

大分西部森林管理署は大分県の最も西の日田市にあり、大まかに大分県の北側半分の大分北部、大分西部流域が管内となります。管内の国有林野は、有明海に注ぐ筑後川や周防灘に注ぐ山国川などの源流部に位置し、重要な水源となっているほか、由布・鶴見岳やくじゅう連山周辺は阿蘇くじゅう国立公園に指定され、登山などの保健休養の場として利用されています。このように風光明媚な地域ではありますが、当署管内の国有林及び民有林では、シカの森林被害が深刻となっています。

#### 【シカ被害防止対策の取組】

シカ被害の状況は、新植苗の引き抜き(食害)、樹皮の食害・皮剥、苗木を傷つけることによる水分障害による枯れがあり、この土地特有の特別な餌となるものはありませんが、シカの頭数が多いため被害は甚大となります。シカネットの設置により植林地等にシカの侵入を防ぐ対策を行っていますが、シカネットの切損・破損箇所からの侵入や押さえロープを持ち上げての侵入が多いため、シカネットの全面に、古くなった海苔網を斜めに張り、ネットにシカが近づけない工夫も行っていきます。

#### 【長距離無線捕獲システムの導入】

これらの取組に加え、近年では、委託契約による捕獲、シカ被害対策協定(大分県猟友会、別府市)による捕獲、職員実行などによる捕獲を行っています。職員実行は、特にシカによる被害が大きい玖珠や九重地域の森林官や職員が、業務の傍らわなによる駆除を実施しています。この地域には自衛隊演習場があり、シカはそこをうまく使って数を増やしている様です。わなを多く設置すれば、それだけ見回る箇所が増えますが、令和2年10月よりICTを利用した長距離無線捕獲システムを導入し、わなと連動させることで、獣がわなにかかると職員のパソコンやスマートフォンにどのわなにかかったのかがリアルタイムでわかり、ピンポイントで向かうことができるようになりました。

捕獲後の止めさしは心理的負担が大きいところですが、捕獲に至る労力は大きく削減することができています。

#### 【シカ捕獲技術・知識等の継承】

わなの設置には、シカの行動特性をよく理解し、シカが通りそうな箇所に設置することが必要です。今後の課題は、そういった技術や知識を持つ職員が減っていくため、若い職員にその技術や知識を伝えていくことが挙げられます。近年は、委託や協定で捕獲された頭数よりも、職員実行で捕獲された頭数の方が多いう状況にあります。暗黙知を形式知にする努力が今後必要になってくると考えています。

署長：平井 郁明(令和4年7月1日～)

R3 国立研究開発法人森林総合研究所林木育種センター 九州育種場長

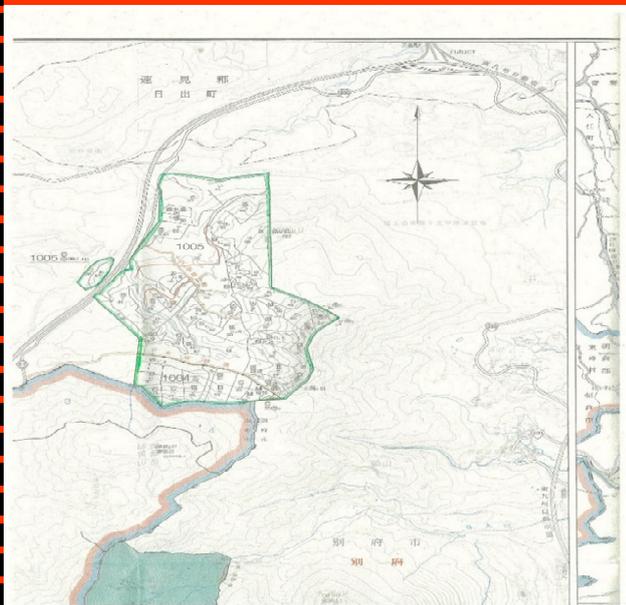
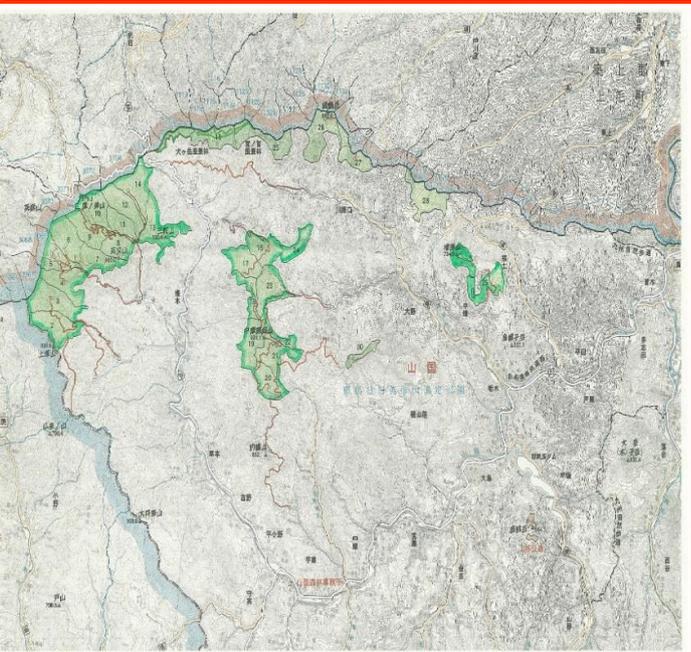
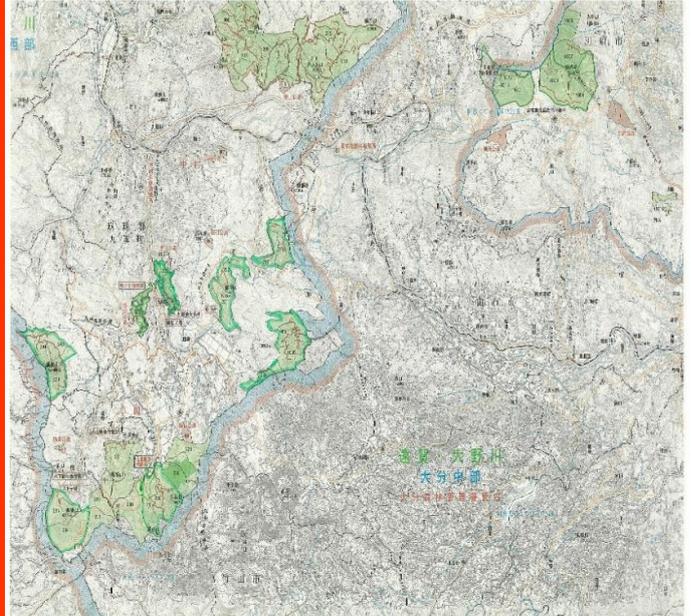
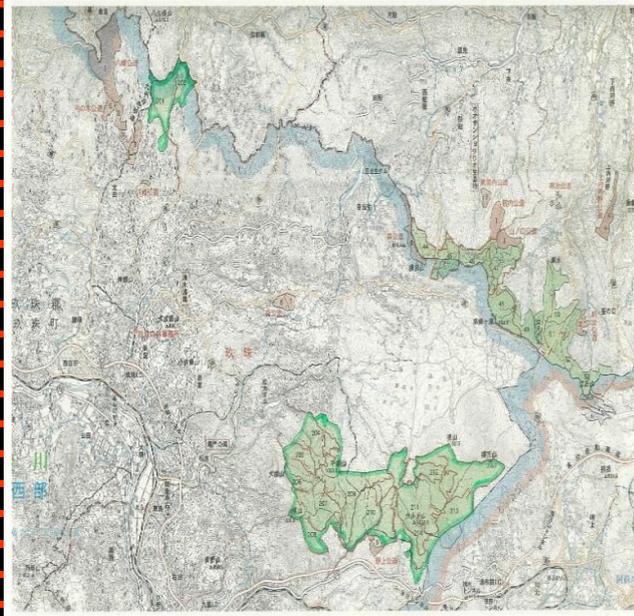
R4 同上



← 【海苔網を斜め張り】



管内図(職員実行箇所)



## 4. 職員実行

### ① 基本情報・トピック

わな講習受講者 24人  
狩猟免許所持職員数 1人  
実施職員の構成  
署長、次長、整備官、森林官、  
行政専門員、森林技術員  
共同実施者の有無  
★署として工夫していること、ポイント  
ICT「長距離無線捕獲システムほかパト」を導入しています。

### ② 安全対策

└ 安全講習会の実施  
└ 緊急連絡体制表の作成  
└ ダニ対策・・・服装チェック、忌避スプレーの携行

### ③ 職員実行の流れ

#### 実施期間・時期の決定

実行体制がとれる状況を判断して決定しています。

#### 実施場所の決定

新植地周辺、シカの目撃が多い場所など効率的に捕獲が可能な場所を選定しています。

#### わなの設置

一部を改良した笠松式くりわなを、誘引剤無しで使用しています。  
ICT機器(ほかパト)を使用しています。

#### ボトルネック(※3)

└ 人工の確保  
└ 作業時間

#### 改善策(※4)

└ ICT機器(ほかパト)の増加

#### 見回り

森林事務所の現場管理業務と一体的に実施しています。  
ICT機器(ほかパト)の有効利用で見回りをかなり省略できています。  
(3森林事務所、親機4基、子機145個)

#### ボトルネック

└ 人工の確保  
└ 作業時間

#### 改善策

└ ICT機器(ほかパト)の増加

#### 止めさし

撲殺やナイフによる刺殺を行っています。

#### ボトルネック

└ 精神的苦痛

#### 改善策

└ 職員の意思確認

#### 処理・埋設

林道脇に埋設穴(直径2m、深さ4m)を作設し、埋設しています。

#### ボトルネック

└ 埋設穴の作成

#### 改善策

└ 事業体の協力

#### 前年度の実績(森林被害面積抑制、捕獲頭数増加)を更に伸ばすために予定していること

ICT機器(ほかパト)の有効利用と見回り省略化が検証できたため、近隣署へ情報提供したいと考えています。(R4年3月導入 熊本署、福岡署、宮崎北部署)  
また、捕獲担当職員からは、通常の巡視程度で見回ることができるため仕事の段取りがしやすくなったと評価されています。

※3 全体に影響する問題要因で最も問題視される要因のことです。本票では各取組業務を妨げる要因として取り扱います。

※4 ボトルネックを解消するための方法です。

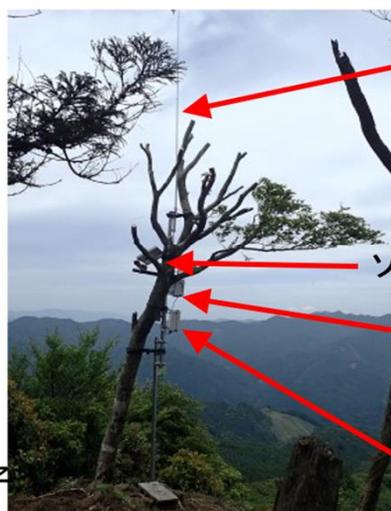
# ほかパトとは



## 親機の設置状況



職員により親機を設置している様子



アンテナ  
(145MHz帯)

ソーラーパネル  
鉛バッテリー

LPWA送受信機  
(4G送信機)

## ほかパトによる捕獲



## 5. 委託事業

### ① 基本情報・トピック

応札者数 1 (1事業あたりの平均)

#### ★目標頭数の決め方

巡視等によるシカの日撃頻度により目標頭数を決定しています。

### ② 特記仕様書での工夫

特記仕様書等に特別な記載はしていません。

### ③ 委託実行の流れ

#### 実施期間・時期の決定

縣市町村の狩猟期間と重ならないよう決定しています。

#### 実施場所の決定

新植地周辺、シカの日撃が多い場所など効率的に捕獲が可能な場所を選定しています。

#### わなの設置

「笠松式わな」を40基、誘引はヘイキューブを使用しています。

#### 見回り

1日8時間、2～3人体制で実施しています。

#### ボトルネック

- ⌋ 人工の確保
- ⌋ 作業時間

#### 改善策

- ⌋ ICT機器(ほかパト)の利用により、見回りを効率化

#### 止めさし

撲殺やナイフによる刺殺を行っています。

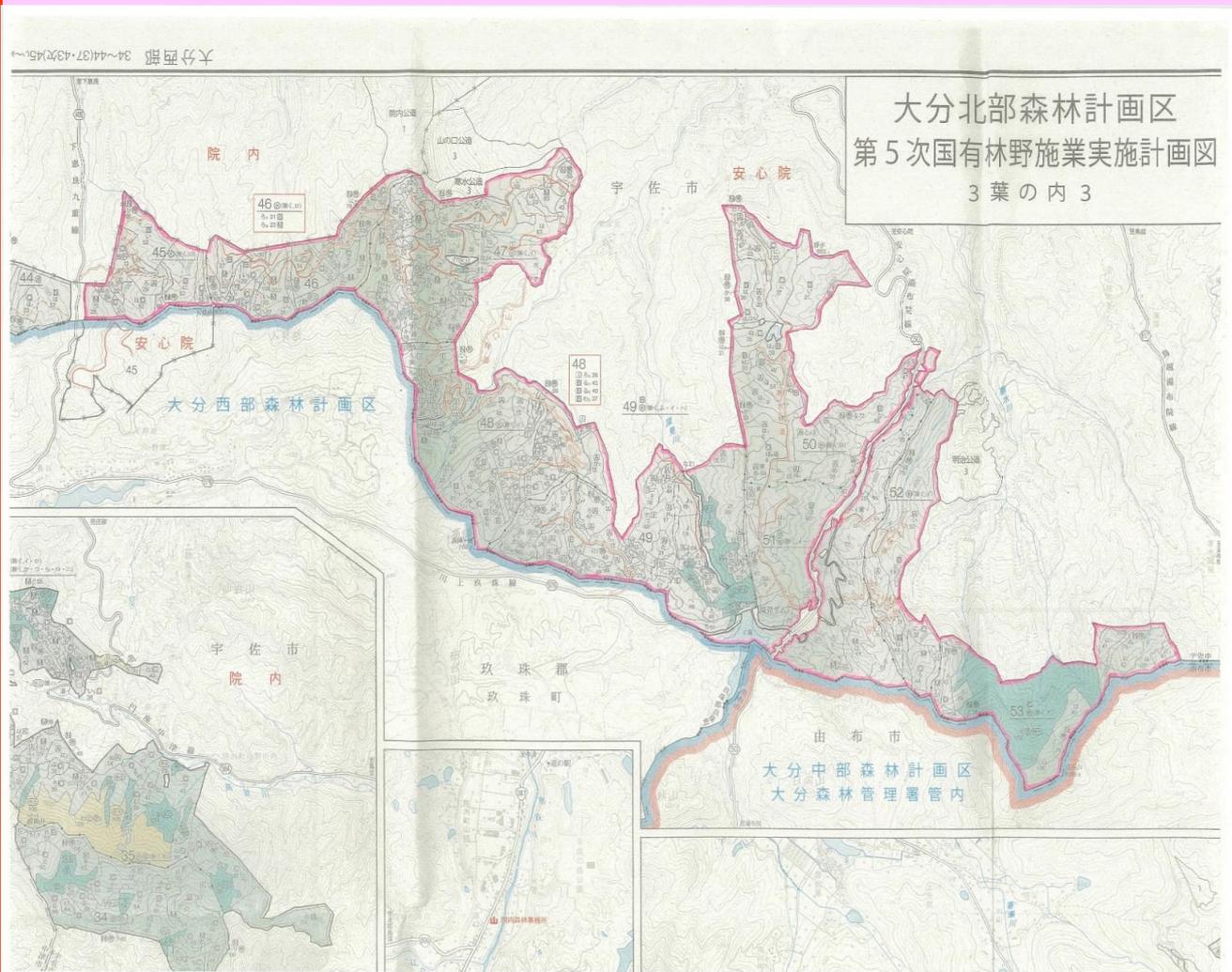
#### 処理・埋設

ジビエ利用はありません。集合埋設(実施箇所付近に埋設穴)を行っています。

#### 前年度の実績(森林被害面積抑制、捕獲頭数増加)を更に伸ばすために予定していること

ICT機器(ほかパト)の利用によるわな設置の増設をしたいと考えています。

委託箇所位置図



## 6. わな貸出(協定・協議会)

### ① 基本情報

管内市町村数	9
協定締結数	1
協定相手方	

別府市、別府市猟友会

協議会参画数

協議会相手方

### ② 協定・協議会裏話

協定締結、協議会発足等にいたるキッカケ

大分西部署から別府市、猟友会へ協定の説明を行いました。

協定締結まで、協議会の運営で苦労した点

猟友会の参画を得ること、見回り等について事前に話し合いました。

協定締結や協議会運営で工夫した点

入林許可等の省略などの対応を行っています。

### ③ 協定、協議会関係図

#### 【報償金の額】

・猟期外	10,000円
・猟期内 ジビエ利用	13,000円
・上記以外	11,000円

#### 【貸出わなの種類、貸出個数】

・くくりわな 24、囲いわな 2

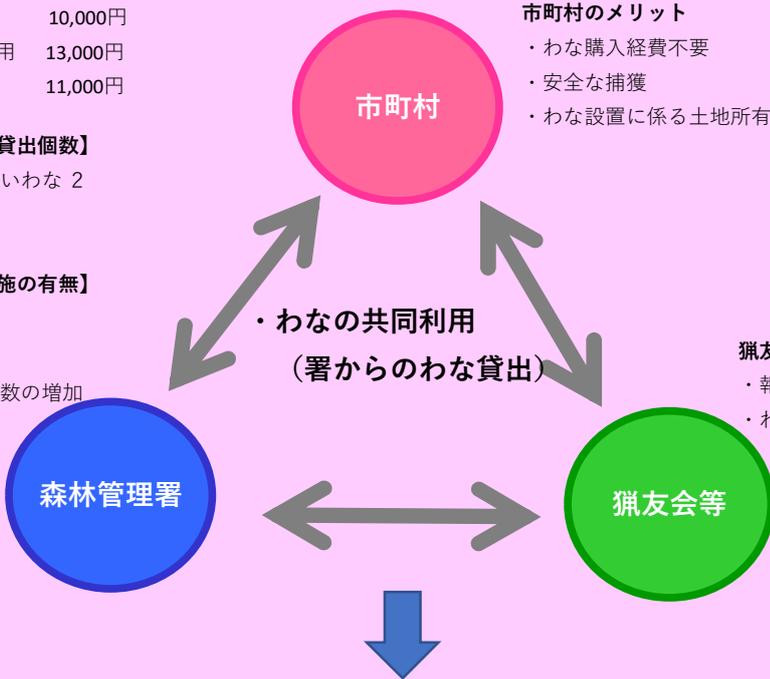
#### 【捕獲実施期間】

・1年中

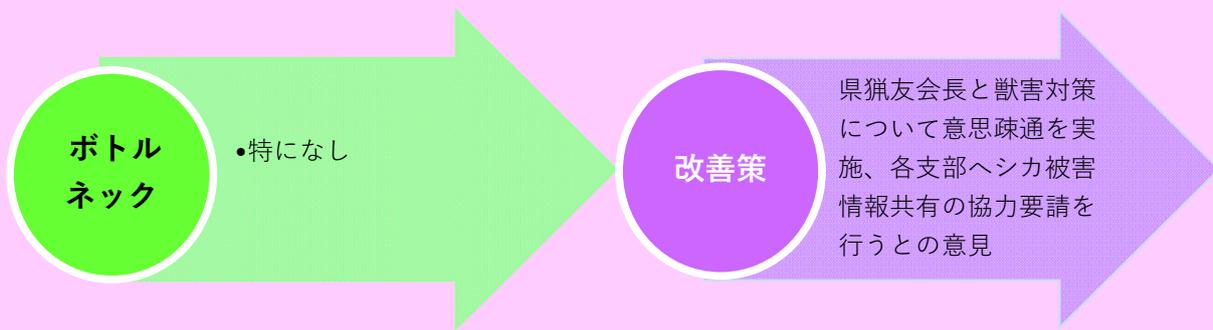
#### 【小林式誘引捕獲実施の有無】

#### 森林管理署のメリット

- ・国有林野内の捕獲頭数の増加
- ・森林被害の抑制
- ・捕獲労力の軽減



★協定締結まで、協議会運営のボトルネック(課題)と改善策



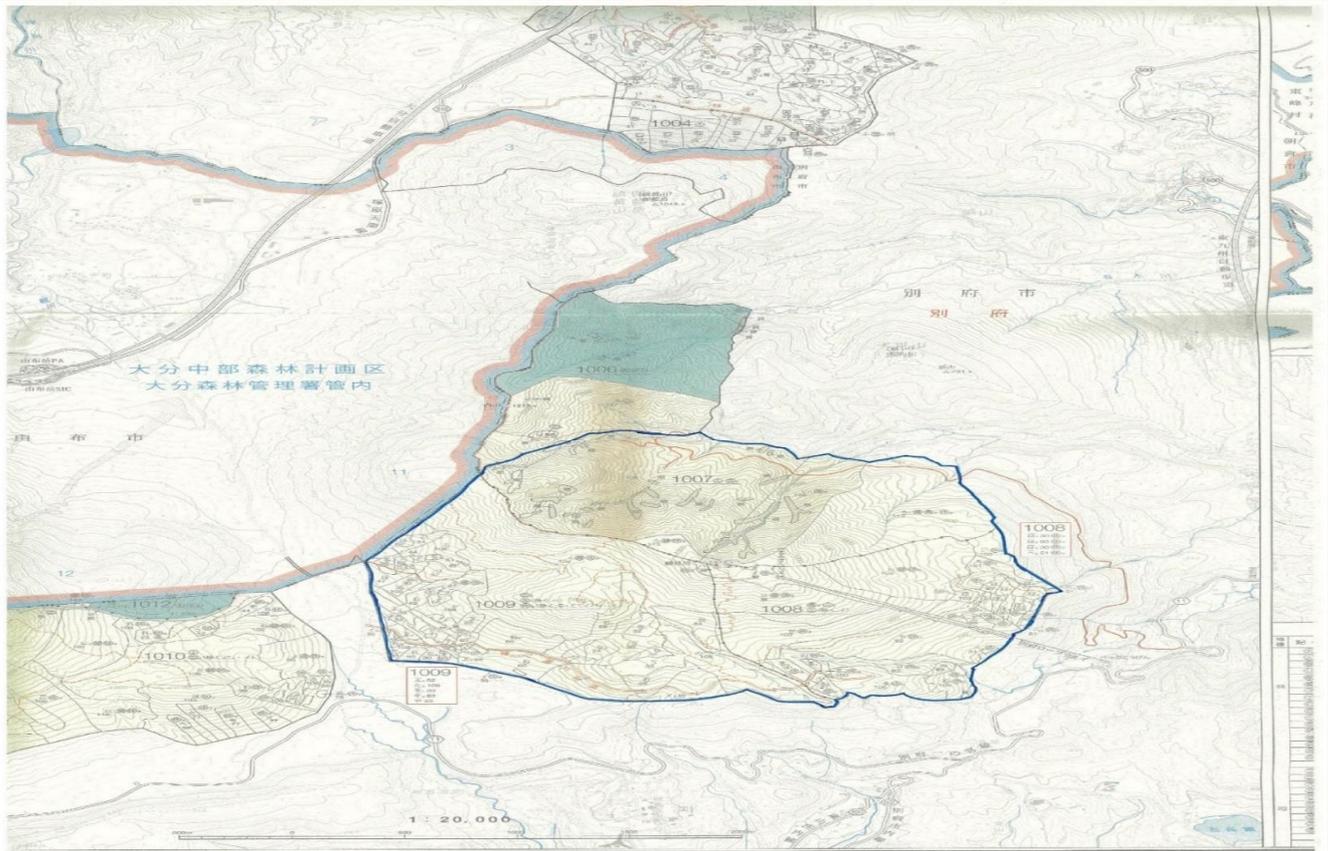
### 協定相手方、協議会参画者からの声

・国有林内の有害捕獲について、くくりわなのシカ捕獲後、銃器による止め刺しができないかと要請があります。(銃器の使用については九州森林管理局の指導により不可と回答しています)

### 前年度の実績(森林被害対策、捕獲頭数)を更に伸ばすために予定していること

- ・毎年、相手方にわなの追加等について聞いていますが、現時点では追加の要望はない状況です。
- ・流域活性化協議会において、ほかパト、協定について説明しています。

協定箇所位置図



出典：別府市ホームページ